## 編集余滴

九州医療センター　岡田　靖

2008年前半は地震災害の年であった．阪神淡路大地震から13年，悲惨で大変な光景がテレビ画面からくりかえし流されているのをみるにつけ，被災された方々の生活が一日も早く復興されることを祈るばかりである．しかし新潟地震や福岡西方沖地震，岩手宮城内陸地震と災害が重なるたびに，その対応が改善されていくのをみていて，われわれはつらい体験の中からさまざまなことをを学びながら進化してきたように思う．地震防災対策特別措置法が施行され，ボランティア精神が醸成され，自衛隊派遣が迅速になり，仮設住宅の設置や救援物資の供給が比較的早く行われるようになってきた．今回の岩手宮城内陸地震では地震予知の迅速な速報も作動し，一部で効果をあげたという．進化している災害対処をみるにつけ，地震大国日本ならではの高度なシステム整備の発展があるからだと心強く思う．環境立国日本，高齢者対策日本，ロボット大国日本，食の安全日本もこれに続いて世界をリードしていくであろう．

最近は「災い転じて福と成す」の精神でこの医療界も前向きに改善を続けていくことが望ましいのではないかと考えるようになってきた．訴訟対策による萎縮医療や医療崩壊などと自らの意識を被害者意識に変えて世に訴える動きがあるが，それでは一般市民，患者から敬意と期待をもって扱われる職業団体とはならないのではないか．ハイリスクな患者家族と常にコミュニケーションをとり，終始納得を得て，患者の視点で医療を実践しつづけることは大変なことではあるが，適正な報酬や対策は徐々に整備されつつある．「われわれ医療従事者が崩壊だから予算をつけろ」的な話ではなく，むしろ国民の多様なニーズが高まるなかで真に期待される職業集団として成り立つよう，さまざまな仕組みや対策を構築しながら前向きに情報発信して取り組んでいくべきではないか．

今年は4疾病5事業がスタートし，特定健診指導も開始された節目の年である．脳血管障害の予防と医療の向上がテーマである私にとっても，地域連携の推進など多忙な日々が続いている．雑誌「医療」は，国立医療学会のテーマやナショナルセンター，国立病院機構の政策医療などを主体にさまざまな企画をもとに特集が組まれ，充実した紙面となってきている．今後，より一層の紙面の充実と購読者の拡大をめざしたいものである．

平成20年7月


### 第2回成育代謝異常症研究会

日　時：平成20年9月19日㈮　17時30分－19時30分
会　場：国立成育医療センター講堂
東京都世田谷区大蔵2-10-1
Tel. 03-3416-0181
参加費：1000円（レジデント・学生無料）
主　催：成育代謝異常症研究会
（代表幹事：国立成育医療センター臨床検査部　奥山虎之）

教育講演
ライソゾーム病の生化学診断と遺伝子診断
（大阪市立大学小児科　田中あけみ）

特別講演
代謝救急：あなたは24時間以内に何をすべきか
（千葉県こども病院代謝科　高柳正樹）

問い合わせ先：国立成育医療センター遺伝診療科　田中　藤樹（Tel. 03-3416-0181）
国立病院機構西札幌病院小児科　長尾　雅悦（Tel. 011-611-8111）